

# 英語科 学習指導案(3年2組)

平成30年10月31日(水) 13:50~14:40 (体育館) 指導者 佐藤 真一

A L T Camilla Webber

— (授業改善の視点) —

世界の国や文化を伝え合うために Show and Tell を用いれば、4技能「読む」「聞く」「話す」「書く」を統合した活動になるだろう。

## 1 題材名 Lesson5 Places to Go, Things to Do (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

### 2 考察

#### (1) 学びのつながり

##### 【学習指導要領における位置】

本題材は、中学校学習指導要領、内容(4)「話すこと【発表】」のイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」を主な目標とし、単元の半ば(4時間目)に即興で話したことをさらに推敲して単元のまとめとして11時間目に発表できるように題材構成を行う。

##### 【これまでの学び】

小学校6年生では「訪れたい国」について発表し、さまざまな国への興味・関心を高めてきた。また、中学校2年生では「おススメの国」としてクラスメイトに自らが訪れたい国、その理由、そこでしたいことなどについて、スピーチをした。

##### 【ここでの学び】

ここでは、関係代名詞 *that, who, which* を含む文とは、対象となる名詞を最初に出してそれがどういう状態であるかを後から叙述されている文であることを学ぶ。つまり、1文に含まれる情報量が増えるので、その1文から読み取ったり伝えたりする情報量も増える、ということになる。関係代名詞は物事を説明するのに適した文型であり、これを使って「訪れたい国」や「そこでしたいこと」について、これまでより具体的に説明できるようになる。

##### 【このあとの学び】

この後のLesson6では、後置修飾(現在分詞・過去分詞)と関係代名詞を省略する文型を学ぶ。これらは、より口語的な表現であり、さらにスピーチをする力を伸ばすための言語材料である。Lesson5ではさまざまな国についての文化という広い視点からの内容であったが、Lesson6では「アメリカの黒人差別」という一国の当時の社会状況についてのスピーチを理解し、その社会的背景についての理解を深める。そして、その次の単元であるProject2「日本文化を紹介しよう」で自国の文化について詳細に説明することにつなげていく。

##### 【授業中の生徒指導について】

世界のさまざまな国や文化について学ぶ単元であるので、生徒が異文化の多様な価値観を感じ取れるように、ときには日本文化と比較しながら、授業を行う。その過程において、文化間の違いのみならず共通点も発見することで、自らが世界の一員であることを実感し、共生の心や世界についてもっと知ろうとする態度を育む。また、生徒同士でもお互いのことを伝えたり尋ねたりする活動を行うことで、自己存在感を高め、共感的人間関係を育むようにする。

#### (2) 教材観

本単元では、世界のさまざまな国や文化について関心を高め、単元末には行きたい場所やそこでしたいことなどについてスピーチをする活動を行う。単元末のスピーチがスムーズに行えるように、単元の半ば(第4時)で Show and Tell を行い、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく高めながら、単元の目標(単元構想を参照)を達成できるようにする。

教科書では、Get Part1ではモンゴルの住居ゲル、Get Part2ではアメリカの映画スター・ウォーズ、Get Part3ではケニアの野生動物、USE Read ではブラジル、と紹介されるもののジャンルも多岐にわたり、単元のまとめの時間のスピーチでも、生徒はさまざまな国やジャンルを選択することが予想されることから、できるだけ多様な国や文化を取り上げ、共有しながら単元末のスピーチが充実するように構想を練る。

(3) 生徒の実態 (男子17名 女子17名 計34名)

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

さまざまな行事に取り組んでいく中で、学級内の絆も深まり、それとともに1対1のコミュニケーション活動もよりスムーズに行えるようになってきている。一方、挙手をする生徒が学級内の7～8人に限定されているので、まだ複数の目があるところで英語を話したり、間違った英語を話したりするのをおそれている生徒が存在している。

【表現の能力】

日々の授業中のコミュニケーション活動や学期末のパフォーマンステスト等によって、自己を表現する力は高まってきている。一方、聞き手を意識しながら絵、写真、物語を即興で説明する力は今後の課題である。これを克服するための手立てとしては、単元の前半と後半で1回ずつスピーチを行う活動を取り入れる。Show and Tell の後やスピーチの前には、まとまった文を書く活動も取り入れる。

【理解の能力】

長文を一文一文訳すのではなく、その内容を大まかにつかんだり、要点をまとめたりする活動によって、英文を瞬時に理解する力は高まってきている。本単元で扱う関係代名詞は、対象となる名詞を最初に出して、それがどういう状態であるかを後から叙述するという、英語の発想が強く反映されている文型なので、この発想を早期に理解するよう指導することで、英語を英語で理解する力を伸ばすようになる。

【言語文化への知識・理解】

身近なカタカナ英語への関心は高く、新出単語の導入の際にもカタカナ英語や既習の単語と合わせて紹介することで、知識の定着を図っている。一方、既習の文法の知識を活用し、英文を書く力に課題がある生徒もいるため、英文を書く機会を多くしながら改善していく。

- 3 目標 }  
4 評価規準 } 別紙「単元構想」を参照

5 指導方針 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※生徒指導3機能

- ・最近では外国の生活の様子を放送するテレビ番組が増えていて、生徒にとっても異国の文化が身近になっているので、さらに関心が高まるような写真や慣習を紹介するようになる。
  - ・小学校の外国語活動では「自分が行ってみたい国」についてスピーチをし、中学校2年生では「おすすめの国」を紹介している。本単元の最後には「自分が行ってみたい国とそこでしたいこと」についてスピーチをするが、小野連携型小中一貫校の指導体制を活かして、中学校3年生のスピーチを録画して小学校6年生に見せる。その意義は、中学生にとっては小学生からの学びが現在の学びまでつながっていることを意識することであり、小学生に対しては将来の目標設定ができるようになることである。
  - ・4技能をバランスよく高めるために Show and Tell を活用し、「聞く」「話す」「読む」「書く」を統合した活動になるようにする。
  - ・本時では、前半にグループで協働して準備を行い、後半は自力で Show and Tell に取り組み、ジェスチャーを多用しながら間違いをおそれず、自発的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる機会とする。
  - ・教科書で扱われている題材を、本時で教科書より先に扱うことで、後で教科書を読んだときに異なる表現の仕方に気づき、表現の幅を広げるようにする。
  - ・教科書で扱われている題材について、本時で教科書より先に読むことで、後で教科書を読んだときに内容をつかみやすくする。
  - ・本単元で扱う関係代名詞の基本的役割は、対象となる名詞を最初に出して、それがどういう状態であるかを後から叙述するという、英語の発想によるものであることもふまえ、その語順に慣れるように指導していく。
- ◎ここでの学びでは、関係代名詞 **that, who, which** を学習してきたので、それらを含む本文を導入の場面で振り返り、定着を図ることで、書くことにつながるようにする。
- ◇Q-List (話し手に対しての質問リスト) を活用することで、聞き手は話をよく聞くようになり、話し手は聞き手を意識 (質問を想定) して話すようになる。
- ※クラスメイトのみならず、小学生にスピーチの様子を見てもらうことにより、コミュニティ内での自己存在感を高める。

6 本時の学習

- (1) ねらい Show and Tellを用いてより多くの世界を知り、その説明ができるようになる。
- (2) 準備 プロジェクター、スクリーン、写真、ワークシート
- (3) 展開

☆は評価項目（方法）

学習活動と 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※生徒指導3機能	ALT
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTのShow and Tellを聞いたりやりとりしたりすることで写真について理解する。</li> <li>○本時における目標の姿であるALTのShow and Tellを見ることで、コミュニケーション活動に意欲的になる。</li> </ul>	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTと生徒のやりとりがスムーズにいくように、生徒を支援する。</li> <li>○めあてを提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真についてShow and Tellで説明する。説明のみではなく、“What do you think?”“Have you been there?”など利き手（生徒）に質問も投げかける。</li> <li>◎関係代名詞を含む英文を読み、単元の言語材料を意識させる。</li> </ul>
めあて Show and Tellを用いて世界の国や文化を紹介しよう。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真と絵を見てShow and Tellに向けて説明の準備をする。</li> <li>○グループ内でShow and Tellをする。</li> <li>○話し手は聞き手の質問に即興で答える。</li> </ul>	展開 1 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Show and TellをするためのALTの説明を補足する。</li> <li>○グループごとに写真と絵を配布する。</li> <li>○グループを解散してShow and Tellをするグループに分かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Show and Tellをするための準備の説明をする。</li> <li>○机間巡視をして英文を読み取るのを支援する。</li> <li>○つまづいている生徒を支援する。</li> </ul>
☆グループで読み取った情報を Show and Tell に活用している。（観察およびワークシート）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○もとの席に戻り、自分で言えた英文をワークシートに書く。</li> <li>○グループで英文を教え合いながら、Show and Tellをした写真について説明文を書く。</li> </ul>	ま と め 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートにShow and Tellで言えた英文をまとめるように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視をしながら英作文についてアドバイスをする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○10、11時間目にスピーチをするにはどんな情報が新たに必要か考える。</li> </ul>	振 り 返 り 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10、11時間目には本時の活動をもとにスピーチを行うことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を通しての感想を述べる。</li> </ul>